

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 6月27日 更新

事務事業名		下水道雨水排水施設維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	生活環境の健康			所属部	水道局	課長名	大塚 勝己
	施策	18	住環境の充実			所属課	下水道課	担当者名	上山展右、久川 紡輝
	施策の柱	58	公園など身近な住環境の整備とみどりの保全			所属班	下水道班	(内線)	5283
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	根拠法令	下水道法 合志市下水道条例	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 21 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	下水道事業として整備した雨水排水施設（雨水管きよ、マンホール、雨水調整池、伏せ越し施設等）の点検・維持管理を行い、土砂除去など適切な措置を講じることで機能保持を図り、都市浸水被害を軽減するための対応を行う。 下水道事業で整備した雨水排水施設とは、下水道事業計画（認可及び全体計画）に基づいて建設された雨水幹線及び雨水調整池等をいい、道路の付属施設としての側溝は含まない。主な施設には、大池調整池、黒石調整池、御代志・黒石・東原・高後山雨水幹線などがある。昭和40年代に旧西合志町で都市下水路として整備され、後に下水道事業計画に位置付けられた黒石雨水幹線が最も古い。
【業務の流れ】	①雨水調整池の機能管理(降雨により、雨水幹線から池への流入及び下流への放流を調整する。流量調整機能)⇒現場に赴き、流入ゲート及び流出ゲートを操作する。②雨水調整池の除草等の管理。③雨水幹線施設ゲートの開閉作業(悪臭対策として雨季以外の時期はゲートを閉鎖する。雨季は開放する。)を行う。④構造的に土砂等が溜まる設備(調整池底部及び伏せ越し部等)の浚渫及び清掃を行う。
【主な予算費目】	委託料(浚渫及び清掃、除草)
【意見や要望】	近年、ゲリラ豪雨などの局地的な大雨が増えており、特に梅雨時期などは雨水排水についての相談がある。(梅雨時期の大雨において道路側溝の許容能力を超えた場合の相談など)。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 雨水排水施設(雨水管きよ、マンホール、雨水調整池、伏せ越し施設等)の点検・維持管理を行った		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 黒石雨水調整池及び黒石都市下水路の除草 大雨時の黒石雨水調整池の流量調節ゲートの管理 伏せ越し施設の浚せつ
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 雨水調整池のゲート開閉作業件数(点検、作業も含む)	件	労務単価の増による委託料の増
イ		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
下水道雨水調整池及び雨水幹線施設		→ ア 下水道雨水調整池数
		イ 下水雨水幹線施設数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
機能が保持される		→ ア 浸水(床上)被害発生件数(処理区域内における)
		イ
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
浸水(床上)被害の発生件数をみることで、下水道雨水調整池や雨水幹線の機能が保持され、役割を果たしたかどうかを判断できると考えた		全体計画 ~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費 の推移				単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込
① 活動指標		ア イ	件		2	2	2	2	2	2	2	2
② 対象指標		ア イ	箇所 箇所		2	2	2	2	2	2	2	2
					9	9	9	9	9	9	9	9
③ 成果指標		ア イ	件		0	0	0	1	0	0	0	0
投資 入費 量	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円	4,213		65	36				
			繰入金	千円	738	1,435	900	900	1,000	1,000	1,000	1,000
			一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	4,951	1,435	965	936	1,000	1,000	1,000	1,000		
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件 費	正規職員従事人数	人	7	3	10	5	10	10	10	10	
		延べ業務時間	時間	170	120	180	900	180	180	180	180	
		(B)人件費計	千円	664	456	717	3,277	717	717	717	717	
トータルコスト(A)+(B)				千円	5,615	1,891	1,682	4,213	1,717	1,717	1,717	

合志市

事務事業名	下水道雨水排水施設維持管理事業	所属部	水道局	所属課	下水道課
-------	-----------------	-----	-----	-----	------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は 5 年度的事後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒ 【原因】 下水道雨水調整池及び雨水幹線施設の機能を保持することができず、本施設に起因する浸水（床下）被害の発生があり、目標を達成することが出来なかった。
	② 6 年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり ⇒ 【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒ 【理由と対策】 下水道雨水建設改良事業において新設雨水管渠の整備を実施していること及び適正な調節管理及び機能保持を行なうことで、目標達成の見込みはある。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒ 【理由】 施設の機能が保持されることが成果であり、それ以上の効果は期待できないため、向上の余地はない。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ 【理由】（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ 【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ 【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒ 【理由】 類似の事業として、道路付属物としての側溝及び地下浸透を目的とした調整池等に係る建設課の道路維持事業や農道及び農業用土地改良施設等に係る農政課の維持管理事業があるが、それぞれ対象とする施設が区分されているため、手段としての連携の可能性はあるが、統廃合はできない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒ 【理由】 今後、整備施設は増加し、施設の老朽化による劣化が進むため、機能を保持するための事業費が増加する見込みである。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒ 【理由】 現在に至るまで、他の事務事業との兼務により人的な作業を行っている。なお、事業の内容上、民間委託はできないため、削減の余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒ 【理由】 自然に起因する雨水を速やかに排除するための施設を維持管理することは、公費で負担すべき事業であり、適正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒ 【理由】 雨水排除に係る経費は公費で負担すべきであり、大規模な雨水排水施設の機能保持及び維持管理作業には専門性が求められ、地域や住民への役割分担は危険性があるため、現状での行政の関与、役割は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

下水道雨水幹線施設の機能が保持できず、本施設に起因する浸水（床上）被害の発生があり、目標を達成することができなかった。

4 今後の方向性（事務事業担当課案） (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												